

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月10日(水)

《何を優先的に考えるべきか・感謝の生活をしましょう》

主の平和

ある人が、以前から欲しいと思っていた新車を買いました。新車は四輪駆動だったのです。この人は雪が降っても大丈夫だろうと、雪が降るのを心待ちにしていました。そして待望の雪が降りました。直ぐに車の性能を確かめて見ようと思って、その四輪駆動のジープで雪の道に乗り出しました。しかし、一分も走らせないうちにスリップして、ある家の壁にぶつかってしまいました。車から外に出てみると、自分の車はエンジンの所まで壊れてしまい、壁はめちゃくちゃになっています。「ああもう、こんなことになってしまって」と腹が立ってきました。こんなに期待して、「この雪道、他の車は動けなくてもこの車は大丈夫よ」と思って楽しもうとしたのに、この壁は修繕しなければならないし、自分の車も買ったばかりの新車なのにと、複雑な苛立つ気持ちになりました。

周囲には、その事故のために人々が集まってきました。集まってきた人々が色々とささやいています。その中の一人が話しかけて来ました。「こんな大きな事故だったら、運転なさっていた人は大変な怪我だったでしょう。もう救急車で運ばれたのでしょうか」と。その時、彼は我に返って気がついたそうです。「そうだ、これだけの事故だったら、私も大怪我しても当たり前なのに、傷ひとつなく私は文句を言っている。」これはどういうことだろうと思いながら自分のことを本当に反省したという、ある人から聞いた実話です。

その話を聞いて私が思い出したのは、やはり私達はしかたなく、自分が不幸だと思う事件にぶつかります。ある日突然、健康な人が交通事故にあったり、病気になったり、そして、心配しなければならない色々なことに会います。その時大体私達は、本能的に「何故、私にこんなことが起きるのか。」と思ってしまいます。これは当たり前かもしれません。しかし、振り返って考えてみると、皆様は色々な難しさを乗り越えて、今まで来ているわけです。その中には神様の御手の働きがあったことを、私達は悟るべきではないかと思えます。

私も自分のことを考えてみると、色んな文句もあったし、「この世の中を大嫌いだ」と思ったこともありました。「何故、世界がこんなに汚いか」と思ったこともあります。しかしそこには、神様の導きが必ずあったと思えます。その導きは、私にとっては一番相応しい、一番望ましい道であったことが後で分かることとなります。少しでも自分を振り返って見る事が出来れば。

さあ、今日の福音(ルカ 17・11-19)に入ってみましょうか。10人のハンセン病を患っている人々が自分達は不浄な者と言われて、健康な人々に近付くことは禁止されていたのです。そして、その病気が恥ずかしい気持ちもあったのでしょう。ですから、イエス様に近付くことができなくて、遠い所から叫びます。お願いします。『イエス様、先生、どうか、憐れんでください』と。それにイエス様はどうのように答えられましたか? 『祭司たちのところに行って、体を見せなさい』と言われましたね。その話を聞いた10人の人は自分の道を行ったのです。その途中で、あるサマリア人の一人が、自分の

体が清くなったことが分かって神様を賛美し、イエス様のところに戻って来て、足元へひれ伏して感謝の挨拶をしたわけです。そこでイエス様は「癒されたのは10人なのに戻ってきたのは一人だけなのか。しかも異邦人ではないか。」と言われますよね。

さあ、ここで私たちが理解しなければならないことがあります。他の一緒に癒されたイスラエル人の9人は何処へ行ったのでしょうか。彼らが常識に外れている人々だったのでしょうか。いいえ、そうではありません。普通の私達のやり方を取った人達です。彼らは長年人間として認められなかったのです。認められる方法は司祭に体を見せて「あなたは清くなりました」と保障されることだったのです。会いたかった家族、色んな人々と交わる資格を貰うために、認めてもらうために、祭司のところへ走って行ったわけです。彼らは間違った行動を取ったわけではありません。認められてから、神様に感謝の礼を表わそうとしたのかも知れません。しかし、異邦人だったその人は祭司に見せなければならない厳しいユダ人の法律には縛られていなかったんでしょ。ですから直感的に自分が癒されたことを感じて直ぐにイエス様の所へ戻ったわけです。「これは感謝しなくてはならない」と思って。

イエス様は、『この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。』と心を痛めます。“私たちが何を優先的に考えるべきか”をはっきりおっしゃっていることです。多分私達は皆、9人の中に入っているでしょう。こんなに惨めで、苦労した事から解放される機械が来たので、早く清くなったことを証明してもらい、人々との関わりとか今まで出来なかったことをやりたい気持で一杯だったでしょう。私達も同じようにそのような行動を取ったと思います。しかし、イエス様は“優先的に選ぶべきもの”を「いや、そうではない。変わらないものを求めなさい。」とはっきりおっしゃっています。

今日の福音を読んで私も反省しました。私ならどうしたか。やっぱり認められたくて何処かに行っちゃったと思います。そして感謝することは、時間があるからいつでも出来るという思いを持ったと思います。皆様よく考えてみますと、私達の人生は恵みで一杯です。それを気付いて悟るか悟らないかで、信仰者が信仰者じゃないかが決まると思います。どんな状況の中でも、感謝の賛歌を唱える唇を私達は持っています。多分私達は間違っではないでしょう。悪いことが起きた時は、大体が他人のせいとか、神様のせいまでします。良い事が起きたら、それは自分の力のせいにします。

皆様、私達は毎瞬、恵みの内に生きています。それを分かって、悟って、感謝しながら、これからの道を求めようとする気持がある時に、正しい道がおのずと待っています。いつも文句ばかり言って、自己満足だけに過ぎてしまうと、私達の道には終わりがみえます。

今日の福音をもう一回考えてみましょう。私達は今まで10人の中の9人の生き方をしたかも知れませんが。しかしこれからは、既にいただいている恵みを悟って、“感謝の生活をしようと言う気持で生きて行きましょう”。そうすれば色んな恐れも難しさも乗り越えられると思います。

ありがとうございました。